

メルキゼデクの位に等しい祭司

2024年6月9日

ヘブル人への手紙 5章5～10節

詩篇 110・4、2・7

創世記 14・18～20

序：人間の大祭司は人々の中から選ばれる

人々に仕える：ささげものといけにえを罪の贖いとして献げる

罪人である自分のためにもささげものをする

自分自身も弱さがある ⇒ 無知な迷っている人に優しく接する

自分でその榮譽、務めを得るのではない（神によって召されて得る）

完全な大祭司イエス・キリスト

I. 大祭司となったのは、父なる神の召し

↓

御子 詩 2・7

II. メルキゼデクの例にならい、御子は大祭司

(I) メルキゼデク 創 14・18～20

「義の王」

サレム（後のエルサレム）の王

神の住まい、仮庵 詩76・2

いと高き神の祭司

アブラムがロトと財産と人々を、略奪者である東方の王たちから取り戻して帰って来たとき、アブラムのところに来て祝福、神をほめたたえたパンとぶどう酒を持ってきた

↓

十分の一をささげた（アブラム）⇒ 最初の十分の一献金

王であり祭司 ⇒ ダビデ ⇒ イエス・キリスト（約束の成就）

系図なし、出生の記録なし、ただ神により立てられた 7・1～3

(2) イエス・キリスト

父なる神によって生まれた（母は人間）

王であり祭司

とこしえに 神によって大祭司と称えられる

キリストは生きていて、彼らのためにとりなしておられる 7・25

永遠に生きて働く大祭司

パンとぶどう酒（弟子たちに聖餐を定めて）で祝福（メルキゼデク
ならい）

Ⅲ. キリストの大祭司職の起源と権威

- (1) 神からのこの務めへの召し（自分で得たのではなく、父により与えられた）
詩 2・7
- (2) メルキゼデクの例にならい、永遠の大祭司
創 14・8、詩 110・4
- (3) 公生涯（人の体をもって、贖いの御業を成し遂げてくださった）は
 - ①御子でありながら、人間となられた
 - ②罪はなかったが、人が経験する様々の苦しみ、悲しみのすべてを経験
 - ③その最たるものは、十字架上の死であった（罪人の救いに必要不可欠）
 - ④死と滅びから救い出すことができる神は、御子の渾身の祈り願いを聞かれた
 - ⑤完全な者、ご自身に従うすべての人にとって永遠の救いの源となられた
- (4) キリストの贖いが成就するため
 - ①敬虔（神を畏れ、罪人を憐れむ）……厳肅さ、神の恵みへの信頼
 - ②従順（苦しみ、試練によって学ぶ）……自分に神を引き寄せるのではなく、自分を神に従わせる
- (5) 結果、神によって大祭司と称えられる
 - ∴私たちは信仰の告白を堅く保とう
 - 罪は別として、私たちと同じ人間として、弱さを理解し、同情してくださる
 - ∴同じように試みに会われた
 - 大胆に大祭司イエスの御座に近づこう
 - あわれみと恵みをいただいて
 - 折にかなった助けを受けるために

私たちの祈りを妨げているものがあるとすれば、

 - (1)信仰が薄いため、主のみことばに従わない（自分の理性が上）
 - (2)神が約束し、差し出しておられる祝福を受け取る勇気がない
 - (3)聞いても実行しない

イエスが大祭司であるからこそ、願い求めるならば、神の大いなる御業を見ることができる 問題は真剣に信じて求めないことだ

1つでいいから、今週、今月、今年、主に願い求めよう
それとともに、従順をも同時に学んでいくことができる